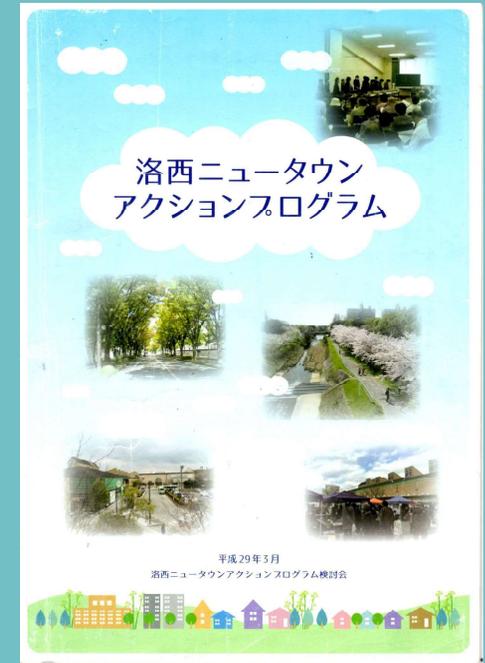


**取組名：高齢者の居場所運営及び  
福祉に関する情報発信の充実**



**団体名：NPO法人洛西福祉ネットワーク**  
**役職名：理事長**  
**氏名：齋藤信男**

取組の目的、目指していること:

**「高齢者・障害者をもった人が住みやすい洛西ニュータウンを目指して」次の取り組みをした。**

## 1. 高齢者の居場所運営

- ①カフェの開催と障害者の受入れ
- ②高齢者と障害をもった人の交流会
- ③第5回わくわくマルシェ

## 2. 情報発信

- ①わくわくサロンだよりに障害者の情報掲載
  - (1) イベント情報
  - (2) ボランティア募集、グループホームの世話人募集
- ②わくわく通信

障害のある方もない方も共に暮らすまちを目指して  
障害のある方の暮らし～西京区の場合～
- ③令和元年障害者週間

障害者に住みやすいまちをどのようにつくるか



令和元年度の主な活動内容:

## 1. 高齢者の居場所運営

(1) 高齢者の居場所カフェ (月~金) 実施

高齢者の利用 1日9名年間2160名

毎週金曜日 昼食会 1回平均11名年間520名

(2) 高齢者の居場所に障害者を受け入れる

2ヶ月に1回日曜日に開催の「うたおう鳴らそう」

(3) 第5回わくわくマルシェ

## 2. 福祉に関する情報発信

(1) わくわくサロンだより (毎月1回発行) 障害者情報

(2) わくわく通信第12号、第13号

(3) 令和元年障害者週間 (12月3日~9日)

① 啓発チラシ配布 12月3日11時~14時ラクセーナ

② 講演会開催 12月7日 (土) 13時30分~15時30分

会場: 障害者支援施設「洛西寮」

## 1. 高齢者の居場所運営

# 高齢者の居場所カフェ開催と障害者の受入れ わくわくサロン



高齢者の昼食会



障害をもった人との交流会

# ♪ うたおう鳴らそう

障害を持った人、もたない人の交流プログラム

## うたおう♪

## 鳴らそう!

パート2



9月15日(日)  
13時30分~15時30分

竹の里会館

会費:300円

楽器で音を出しながら、  
ピアノに合わせて歌いましょう♪



おどるボンボリン  
川の流れるように・いい日旅立ち  
夕焼け小焼け・赤とんぼ  
めだかの兄弟 など

主催：NPO法人洛西福祉ネットワーク  
(洛西ニュータウンアクションプログラム)  
みんなで歌おう会





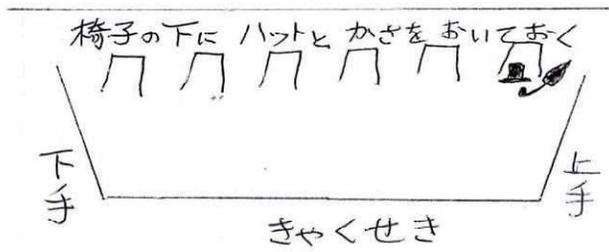
# 「ミュージカル：〇〇さんのかさ」脚本

動く絵本「〇〇さんのかさ」

登場人物

人形劇

ナレーター  
おじさん  
おくさん  
いぬ  
ねこ  
しらない人  
ちいさなおとこのこ  
ちいさなおんなのこ  
町の人たち(けしき係)



オープニングダンス  
「ロ備ふきと犬」

(ダンスがおわったら全員いすにすわる)

いぬ「おじさんのかさ」 はじまりはじまり

(けしき、家の中)

おじさん登場。ねこ、おじさんのまわりうろた

ナレ  
おじさんはとてもりっぱなかさをもっていました。  
くろくてほそくて、ひかひかひかかった  
つえのようでした。  
No. 1

参加者募集：年齢不問：月1回練習予定 問合せ先：NPO法人洛西福祉ネットワーク



# 第5回わくわくマルシェ

障害のある人も、ないひとも、共に暮らすまちマルシェ





# ♪うたいます、♪うたいます 「竹の里保育園児」





# 「歌おう鳴らそう」合唱





# 〇〇大学OBのトランペット演奏



# マルシェ: 洛西寮出店



マルシェ:しよべるかーらんど





# 障害者週間あんない

京都市 ニュータウンにおける地域団体活動ステップアップサポート事業

12月3日～9日は

## 障害者週間

講演会

2019年度障害者週間 によせて

### 障害者に住みやすいまちを どのようにつくるか

2019年度障害者週間は12月3日～9日と定められており、障害のある人もない人も、住民が、障害の有無によって分け隔けられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、共に安心していきいきと暮らせる共生社会の実現を目指すものと示されています。

洛西ニュータウンにおいてはニュータウン活性化の取り組みとして「洛西ニュータウンアクションプログラム」が平成29年～令和2年に掛けての取り組みが推進中であり、そのテーマ「7」に「高齢者・障害者 に住みやすいまちづくり、いきがいづくり」があります。このテーマを受けて、障害者が住みやすいまちをどのようにつくるかについて、この分野について造詣の深い三田優子先生をお招きし講演会を開催いたします。

2019年

12月7日(土)

13時30分～15時30分

会場 社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター  
障害者支援施設「洛西寮」ホール

京都市西京区大枝東長町1-67  
JR桂川駅から徒歩9分 阪急洛西口よりバス8分  
北福西下車バス停より2分

講師 三田 優子氏

大阪府立大学地域保健学域 准教授

日本女子大学、東京大学大学院を修了後、愛知県発達障害研究所、花園大学を経て現職。専門は障害者福祉、精神保険学。社会活動として、大阪府社会福祉審議会委員、茨木市障害者地域自立支援協議会会長など。

参加  
無料

問合せ先 NPO法人 洛西福祉ネットワーク TEL 075-333-3392

## 講演会概要報告

京都市 ニュータウンにおける地域団体活動ステップアップサポート事業

2019年度 障害者週間 によせて

### 障害者に住みやすいまちを どのようにつくるか

講師 三田 優子氏

2019年12月7日(土) 社会福祉法人京都視覚障害者支援センター  
障害者支援施設「洛西寮」ホール 主催：NPO法人 洛西福祉ネットワーク

「障害者」と「障害者が」と「障害者も」  
いただいたタイトルが「障害者」に「だ」たんをすね、「障害者」でも「障害者」でも、なんでも私の中ではいいですが、とにかく障害があってもなくても住みたいところ、私はここで住みたいという人が増えていくように、私も住みたいと思っております。

「障害者」と「障害者が」と「障害者も」  
大阪府立大学地域保健学域准教授  
日本女子大学、東京大学大学院を修了後、愛知県発達障害研究所、花園大学を経て現職。専門は障害者福祉、精神保険学。社会活動として、大阪府社会福祉審議会委員、茨木市障害者地域自立支援協議会会長など。

講師 三田 優子氏

講演会  
「障害者が住みやすいまちをどのようにつくるか」

NPO法人洛西福祉ネットワークは「高齢者・障害者に住みやすいまちづくり」を活動目標に掲げています。その一環として、2019年度障害者週間(12月3日～9日)に合わせて、12月7日(土)に講演会を開催しました。その概要を報告します。

して、そんな話をさせてください。私自身は、学生時代に無理やり行かされた精神病院での実習がすべてのスタート。多分精神の病気になる可能性は私もある、そう思った時にもちよつとまじなところが日本に増えたらいいな、と。

その後大学院に行きながら、家族の方と精神障害者のグループホームを地域で立ち上げて、そこから5年間スタッフとして働きまじた。初めての就職先は愛知県の発達障害研究所の職員です。そこは知的障害あるいは重症心身障害をお持ちの方が、750人山の土着です。入所施設の一角にあつたので、その研究員を約10年ほど、その当時世の中で発達障害と

いうのはまだそんなに言われてなかつた頃だつたと思ひます。  
(1) 障害者支援の前に、自分自身を振り返つてみよう  
今日は障害者であることを勉強しに、障害者をどうして支援しようかという立場で、ここに参加しました。ところがほとんどかもしれないんですけど、皆さん自身の、自分自身を振り返つていただくと、こちらから始めようかな、と思つています。  
もし、「私は障害者ではない」と言えたら、それはどうしてでしょうか？ 障害者手帳を持っていないから？  
それは逆に、心も体も100%何の問題もなく健康だという方は、いっしょにしようか。学生が入年してきて初めの授業でこれを訊くと、まあ100人20



2019年度障害者週間ポスター(内容省)

「講演会概要報告」必要な方は、NPO法人洛西福祉ネットワークまで連絡下さい。



# 障害者に住みやすいまちをどのようにつくるか

障害者週間：講演会講師：大阪府立大学 三田優子先生



会場：障害者支援施設「洛西寮」4階ホール

令和元年度の活動の成果:

1. 障害者との交流「歌おう鳴らそう会」は練習を重ねる毎上達し第5回わくわくマルシェに**出演発表した**。
2. 令和1年障害者週間（12月3日～9日）に啓発ビラ配布
3. 同 障害者週間に「講演会」を開催 好評であった。  
日時・場所：12月7日（土）・障害者支援施設洛西寮  
テーマ：**障害者に住みやすいまちをどのようにつくるか**  
講師：大阪府立大学地域保健学域准教授 三田優子

活動において苦勞したこと、苦勞を乗り越えた対策など:

1. 障害者週間の取り組みについて、各障害者団体と連携した取組を考えていたが年度当初に呼び掛けが出来ておらず、障害者講演会の開催日が他の行事と重なり多くの参加者を得ることが出来なかった。

今後の活動展望：

1. 高齢者の居場所に障害者を受け入れているが、障害者、高齢者、子供、若い世代と分けず「みんなの居場所」として常に交流出来る居場所づくり（竹の里会館）  
（新型コロナウイルス感染予防としての居場所のあり方検討）
2. 令和1年に高齢者・障害者の交流プログラム  
「うたおう鳴らそう！」の経験から「おじさんのかさ」  
を取り上げミュージカルに仕上げる。参加者募集中

自由記載（ニュータウン・地域をこうしていきたいという思いなど）

1. 4地域のサフセンターを特色のあるものにして、巡回バスでいくことが出来るものにする。
2. 各サフセンターの1室を防音室にして若い世代の楽器演奏が出来る（WIFI接続可能）。
3. センターゾーンは文化ゾーンとして、映画、音楽、演劇等が出来る小劇場を設ける。